

香川県伊吹島

●交流促進●

「瀬戸芸」開催後も継続して 観光客が訪れる島に

香川県観音寺市政策部企画課

◆「伊吹いりこ」で有名な漁業の島

香川県観音寺市に属する伊吹島は、香川県と愛媛県の県境に近く、観音寺港の西約一〇キロメートル、香川県の最西端に位置している面積一・〇五平方キロメートル、人口五九〇人（二七三世帯）の小さな島です。

豊かな漁業資源に恵まれ、カタクチイワシ漁を背景とする煮干しイワシの生産が島の経済を支えており、島内で生産された煮干しイワシは、地域団体商標（地域ブランド）「伊吹いりこ」として全国で愛されています。

しかし、島の人口は、平成一七年から同二二年までの五年間で二五・六パーセント減少。高齢化率四三・九パーセント、独居老人世帯八三世帯と、過疎化、高齢化が急速に進行していることから、島の活力が低下していくことが懸念されています。

また、「伊吹いりこ」の製造にかかる漁業および水産加工業が島の雇用の大多数を占めていることから、後継者不足が問題となっています。カタクチイワシ漁が、夏季（六～九月）を中心とした季節産業であるので、休漁期の島での仕事が非常に少なく、本土で他の仕事に従事する者が多いことも課題の一つです。新たな産業の育成や島内での安定的な雇用の創出が求められています。

◆行政と地域住民が一丸となった

「瀬戸芸」の事業運営

平成二五年に「瀬戸内国際芸術祭二〇一三」が香川県内の一二の島々で開催されるにあたり、伊吹島が初めて会場となりました。本市では、これを契機とし、芸術鑑賞を取





伊吹島の経済を支えるカタクチイワシ漁。

り入れた特色のある観光資源の開発や、芸術祭の運営を関係機関や団体と連携して行うことで、地域の活性化や島外者との交流を推進していくことを目的とした「瀬戸内国際芸術祭関連事業」を実施しました。

同事業では、「瀬戸内国際芸術祭二〇一三」を市一丸となつて成功させるため、全体の実行委員会である「瀬戸内国際芸術祭観音寺市実行委員会」と島内で構成された「瀬戸内国際芸術祭伊吹島実行委員会」が離島活性化交付金を活用し、事業を実施しました。「観音寺市実行委員会」では、市独自に行う芸術鑑賞を取り入れたイベントの

運営や広報活動、来場者のための交通対策、インフォメーション等運営など、芸術祭をスムーズかつ、より充実したものにするための事業を行いました。

《主な事業》

- ① イベント案内チラシ、島内マップの作成
- ② 独自イベントの開催
 - ・ オープニングイベント
 - ・ 夜のまち歩きによるしるべ2013
 - ・ 島の音楽会 など
- ③ 無料シャトルバスの運行

一方、「伊吹島実行委員会」においては、実際に島に訪れた方が快適に過ごすことができるよう、ボランティアによる草刈り、案内板設置、トイレ管理、休憩所の運営など、またここへ来たいと思えるような「おもてなし」のための活動を中心に事業に取り組みました。

休憩所は公共施設などに加え、ボランティアにより民家やお寺などを開放していただくことができ、会期中に延べ五〇〇人以上のボランティアが休憩所の運営に関わり、お茶を提供するなど来島者をもてなしました。

また「瀬戸内国際芸術祭関連事業」に加え、首都圏で伊吹島のPRを行うことにより、「伊吹いりこ」の普及促進を

はじめ、観光・交流情報などの情報発信をする「交流促進事業」を平成二五年度から継続して実施することとしました。

具体的には、東京のアンテナショップ店頭などにおいて、伊吹島のパンフレットを配布するなど島の魅力の紹介を行うとともに、「伊吹いりこ」の普及のための販売促進活動を行いました。

◆三万七〇〇〇人もの来島者で活気づく

伊吹島はまわりに島がない単独離島であり、香川県の手端部という位置条件から、芸術祭ではどれくらいの方に来ていたただけなのか、まったくの未知数でしたが、七月二〇



オープニングで来島者を出迎えるスタッフたち。



会期中3万7,000人もの観光客が訪れた。

日から九月一日までの会期中だけで三万七〇〇〇人もの来島者がありました。これは、例年一年間に訪れる観光客数の三倍以上であり、島は大いに活気づきました。

瀬戸内国際芸術祭は三年に一度の開催となっていますが、今年度から芸術祭開催年以外にも一年を通じて誘客・発信のための活動に取り組む活動「ART SETOUCHI」が県全域で開催されます。伊吹島でも独自のイベントの企画を行い、賑わいが一過性のものとならないよう、市をあげて取り組んでいきたいと考えています。

交流促進事業における情報発信では、首都圏における「伊吹いりこ」の販売状況や伊吹島の知名度について肌で感じることができたことが大きく、今後も継続的に情報を発信していく必要があることを実感しました。

伊吹島では、今回紹介した「交流促進事業」のほか、伊吹漁協による「流通効率化関連施設整備等事業」、「安全安心向上事業」を活用した伊吹総合防災センター建設など、多岐にわたる事業に離島活性化交付金を活用しています。交付金のメニューが多様であり、これまで懸念されていた事項が順調に解消されつつあります。

今後も交付金を最大限に活用し、地域住民の皆さんと一緒に島の活性化に取り組んでいきたいと思っています。